病気の孫を支えるために



家族問題評論家
池内ひろ美

病気の子どもを支えるのは、家族の愛です。糖尿病は一生向きあっていかなければならない病で、お子さまにとっては、将来への不安、治療にともなう苦痛等から大きなストレスを抱えています。そのような患者である子どものケアはもちろん大事です。しかし、ケアが必要なのは子どもだけではありません。母親へのケアもまた重要です。糖尿病の子どものための食事管理、運動療法の指導。さらに継続的な通院の世話など、母親が背負う負担には大きなものがあります。さらに、子どもが糖尿病と診断された場合多くの母親は「自分のせいではないか」という自責の念に苦しんでいます。しかし、それは母親の責任ではありません。母親を責めることなく、病気の子どもと同じように、「子どもを支える母親」を家族みんなで支えてあげてください。子どもにとって、もっとも大きな支えは、母親の笑顔なのですから。



寄付・サポートのお願い

日本 IDDM ネットワークは、糖尿病の根治、治療、予防に関する研究費の助成、患者・家族への様々な情報提供などを行っています。この活動をぜひご支援ください。

【マンスリー会員】
月々千円からのマンスリー会員になって頂くことでご支援いただけます。

【ふるさと納税】
日本 IDDM ネットワーク指定で、佐賀県庁へふるさと納税ができます。

【遺贈寄付】
亡くなった方の遺産の一部、または全額を寄付いただけます。
100 万円以上のご寄付をいただけると、亡くなった方のお名前で冠基金を設立することができます。

【寄付の方法】
詳しくはホームページをご覧ください。電話でもご案内しております。
ウェブサイト　https://japan-iddm.net
（「日本 IDDM ネットワーク」で検索）
電話 0952−20−2062

右の二次元コードをスマートフォン等で読み込むと寄付ページにアクセスいただけます。

【制作】認定特定非営利活動法人日本ＩＤＤＭネットワーク
【監修】堀田優子（PL病院小児科 医長）川村智行（あべのメディカルクリニック 院長）
このパンフレットは、テルモ生命科学芸術財団の助成を受けて制作しました。
2SP2605

2型糖尿病の孫を支える祖父母のためのパンフレット



IDDM
「治らない」から「治る」へ

認定特定非営利活動法人
日本 IDDM ネットワーク



僕は泣かない。
病に負けない。
みんなの愛を受け止めて、
自分の道を切り開く。

糖尿病のお孫さんへの接し方に
迷いや悩みをかかえた時は、
「日本 IDDM ネットワーク」に
お気軽にご相談ください。

ご相談はメールまたは電話にて、
事務局で受け付けています。
メールアドレス
info@japan-iddm.net
電話 0952−20−2062

糖尿病の基礎知識

糖尿病に、根治の方法はありません。一生、向きあって生きていかなくてはならない、そんな病気です。だからこそ、患者本人も家族も、病に負けない強い心が必要です。その強い心は、家族の愛情が育てます。愛情を支えるのは理解です。まずは糖尿病のことを正しく理解し、糖尿病を発症したお孫さんと向き合い、寄り添ってください。

糖尿病とは

人がとった食事は、分解されてブドウ糖になり、血液中に入ります。血液中のブドウ糖は、膵臓から分泌されるインスリンを介して、全身の細胞に取り込まれエネルギー源になります。インスリンが足りなくなると、ブドウ糖が細胞に取り込まれなくなりエネルギー不足になるとともに血液中のブドウ糖濃度（血糖値）が上がります。これが糖尿病です。糖尿病には１型と２型があります。１型はインスリンが分泌されませんが、２型はインスリンの分泌が足りない、または働きが悪くなる病気です。発症の原因はさまざまです。
１型の場合は、自己免疫などの原因で膵島細胞が破壊されることが原因ですが、２型糖尿病の発症は環境や遺伝、体質の関与も大きく、肥満や運動不足のみが発症の要因とはいえません。幼い子どもの場合は、ほとんどすべてが１型ですが、小学生でも２型を発症する場合があります。中学生以降では、２型の発症のほうが多くなります。

２型糖尿病の治療方法

病状にあわせて、食事療法、運動療法のみの場合から、それらに加えて飲み薬を飲む場合、インスリン注射をする場合、飲み薬とインスリン注射を併用する場合などさまざまです。肥満を伴った患者の場合は、肥満の是正が必要です。詳しくは医師に診察を受け、医師の指示に従ってください。

低血糖の症状・対処

低血糖とは、薬が効きすぎて血糖値が低くなりすぎた状態です。２型糖尿病の場合、低血糖になることはほとんどありませんが、インスリン注射をしていたり、インスリン分泌を促進するタイプの薬を服用している場合には稀に生じることがあります。低血糖症状は、空腹感、倦怠感、あくび、集中力低下、不機嫌、ふるえ、頭痛、顔面蒼白など。人によって非常にさまざまな症状があります。進行すると意識障害やけいれんが起きますが、初期のうちに対処すればまず起こることはありません。低血糖の訴えがあれば、我慢させずに、子どもの求めに応じてすぐに補食をしやすい環境をつくることが求められます。万が一意識障害やけいれんが起こった場合は、落ち着いて救急車を呼んで保護者に連絡しましょう。

生活での注意点 ～治療を継続しましょう

病気が進行すると、のどが渇く・尿が増える・体重が減るなどの症状が出る場合がありますが、多くは症状がありません。症状がないと、治療（食事療法、運動療法、内服など）や通院の必要性を感じたり理解したりすることが難しく、自己中断してしまうことがよくあります。しかし、見かけ上は元気にしていても、ほうっておくと、将来の慢性合併症につながり、症状が出たときには元の状態に戻れなくなっていることもあります。症状が悪化すると、腎不全による透析、網膜症による失明、足の壊疽による切断など、重篤な事態に陥ります。したがって、治療や通院を投げ出さず継続することが重要です。祖父母の方々には、親御さんと協力して、治療や通院ができているかを見守ったり、ときにサポートしたりすることをお願いいたします。特に、食事療法に関して、本人だけの努力では継続困難であり、祖父母を含めた家族の協力が必須であるといえるでしょう。逆に、きちんと治療し良い血糖コントロールを保てていれば、将来にわたって糖尿病でない子たちと同じように日常生活を送ることができます。２型糖尿病は長くつきあっていかなければならない病気です。ぜひ長い目で温かく見守っいただければと思います。
また、お孫さんが２型糖尿病の場合には、祖父母や両親のかたがたも、２型糖尿病であったり今後発症される可能性が高いといえます。したがって、家族全員が健康に過ごしていただくためにも、家族がひとりひとり、定期的に医療機関を受診されることをお勧めいたします。